

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
さくら	山形	<ul style="list-style-type: none"> ・2月出荷の促成は1月中旬から始まり、促成開始後の花芽の生育は順調である。今後も順次促成が開始する予定である。 ・今年の花芽着生が例年以上に良好であるため、出荷量はやや多い見込みである。 ・今年の開花揃いは平年よりも良好である。 	
アルストロメリア	山形	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は、最低温度10～13℃程度で加温管理が行われていることから、概ね順調に推移している。 ・2月の出荷量は、作付面積が前年よりやや減少しているものの、加温が例年以上に徹底されていることからほぼ前年並みが見込まれる。 ・病害虫の発生は少なく、切り花品質は良好である。 	<p>現状 愛知、長野が主産地となるが、低温の影響から生育が鈍く、数量は各産地少ない状況となった。業務需要中心に引き合いがあり、高値はないものの底堅い相場展開となった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 各産地、気温が緩んでくるにつれ増加傾向となる見込み。上位等級中心から、各等級ロットがまとまってくる見込み。580,000本 @70</p>
	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・下旬に向けて出荷量が増えていく見込み。 ・例年より出荷量は少ない見込み。 ・10月の台風による浸水の影響で量、ボリュームとも抑制させている。 	<p>FAJ 長野・山形より入荷。安定した相場での販売が1月同様続く見込み。</p> <p>東日本板橋花き 愛知、福島、青森中心の入荷出荷量は横這い。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き イベントによる入荷減の見込み。引き合いは強くなる。</p>
バラ	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は、順調で出荷ピークは平年並みの見込み。 	<p>現状 国産については、低温の影響を受け暖地、高冷地共に減少傾向となる。輸入については為替の影響を受けているが、価格注文等により数量増加となった。</p>
	山梨	生育は昨年より2日程度遅れているが、概ね順調に推移している。	<p>見通し</p> <p>大田花き 状況としては1月と変わらない見込み。2月はフラワーバレンタイン需要により2週目で赤、濃いピンク需要が高まる見通し。1,800,000本 @95</p>
	大分	曇天による日照不足が続いており、ハウス内温度も低いため月間を通じて出荷は少ない見通し。	<p>FAJ フラワーバレンタインの影響で上中旬は赤を中心に引き合い強まる見込み。</p>
			<p>東日本板橋花き バレンタイン需要で赤バラ中心に多少の動きはある為入荷量は横ばいになる見込みです。</p> <p>世田谷花き 中旬以降入荷増えるだろう。引き続き堅調な相場の見込み。</p> <p>第一花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
ストック	千葉	①10月の台風の影響で植え直しや定植の遅れがあったため、2月の出荷量は前年より10%減となる見込み。 ②南房地区はスタンダードはアイアン系、スプレーはカルテット系が中心。 館山市西岬地区はスタンダード中心で品種はアイアン系、神戸地区はスプレー中心で品種はカルテット系。	<p>現状</p> <p>山形産は出荷終盤。千葉産も若干の生育遅れも生産者によってまちまちで数量伸びず。相場も年明け以降葬儀需要に絡み昨年と比べて堅調に推移。下旬より徐々に千葉産は増加。</p>
		①昨年2月の降雪による施設倒壊の影響で作付面積はやや減少した。生育は良好で分枝の花付きも多い。 ②カルテットシリーズが中心。	<p>見通し</p> <p>大田花き 千葉産は神戸、西岬中心に数量は徐々に増加傾向。相場はそれほど強くない時期であるが、大幅に増える見込みは現状ないため昨年と比べて安定した販売となる見込み。</p>
トルコギキョウ	熊本	春季出荷までの端境期となり、出荷は落ち着く見込み。その中でも加温をしっかり行う産地から一定量の出荷があると思われる。春季出荷分も順調な生育で2月下旬頃から数量が増えてくる。	<p>現状</p> <p>国産は産地により生育状況の差は見られたものの熊本、静岡を中心に昨年並みの入荷となった。輸入は冷え込みの影響はあったものの昨年ほどの遅れは無く例年に近い入荷となった。販売に関しては前半厳しい販売であったが後半の年末年始の需要を中心に活発な取り引きとなった。</p>
		1月まで冷え込みで遅れていた分の出荷が見込まれており全体としては中旬以降にウェイトを置いた出荷見込み。遅れていた色物も増加中であり、県全体としては色バランスのとれた出荷となる。日照の少ない産地では1輪～2輪の出荷もしばらく続く見込み。	<p>見通し</p> <p>大田花き 国産は産地により増減はあるものの昨年並みの入荷となる見込み。輸入の台湾産は天候の影響が無ければ昨年を上回る入荷を見込んでいる。</p>
		2月出荷は曇天が続く日照不足で花ボリュームが確保できず、優品の出荷割合が高くなる見込み。	<p>FAJ 葬儀やプライダルなどの業務需要を中心とした値動き。</p> <p>東日本板橋花き 国内は冷え込みが厳しく急激な増量は見込めないが、全体量は輸入品の割合次第で増減。</p>
			<p>世田谷花き 熊本・高知・栃木などから入荷。入荷増えるのは下旬以降。</p> <p>第一花き</p>
小ギク	沖縄	今期は一割程度減少した作付となっているが、生育は順調に推移している。配色割合は黄：白：赤＝47：27：26となっている。	<p>現状</p> <p>年明けより沖縄産中心の入荷となるが入荷数量安定しない為、月を通して堅調な引き合いとなる。</p>
			<p>見通し</p> <p>2月上旬以降より、入荷数量が安定していく見通し。引き合いについても数量増加と共に落ち着いてくる見込み。</p> <p>大田花き</p>
小ギク	沖縄		<p>FAJ 沖縄を中心とした入荷は変わらず。多少なりとも出荷数量が増えてくる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 特に大きな需要もなく動き鈍い見込み、色バランスも偏りがち、下旬増</p> <p>世田谷花き 徐々に入荷は増えてくる見込みだが、需要も落ちてくるので、単価はまちまち。</p> <p>第一花き</p>